

令和5年5月15日

学部学生・大学院生の皆さんへ

理事（教育・産学連携担当）・副学長

山本 清二

人工知能チャットボットの利用に関する注意喚起

昨今、Chat GPT に代表される人工知能チャットボット（チャットでの質問に対して、人工知能の機械学習を用いて適切な回答を自動的に提示できるようにするサービス）が大きな話題となっており、この利用が急速に広がっています。人工知能チャットボットでは、求められた要望に対し文章等を生成しますが、適切な問いや情報を与えることで、従来よりもはるかに効率的な作業ができるようになるため、適切に使うことができれば、大変有用なツールになります。

しかし、これらのツールの利用には、①教育、②情報漏洩、③著作権侵害の観点から注意が必要です。以下の注意事項を常に念頭において、有効に活用するよう心掛けてください。

① 教育の観点から

- 人工知能チャットボットで生成された結果には、誤った情報やバイアスが含まれることがあります。情報の正確性を常に疑問視し、複数の情報源を確認し、引用や内容を自らの言葉で説明できるよう心がけてください。
- 独自の意見や分析を行う能力は、今後の社会でますます重要になります。ディプロマ・ポリシー（学位授与の基本方針）の「自律的学修能力と応用能力」「科学的探究心」を身に付けるためにも、回答に頼りすぎず、自分自身の思考力や判断力を磨く努力を常に怠らないでください。

② 個人情報や知的財産に関する情報等、情報漏洩の観点から

- 医療にかかわる個人情報を入力すると、クラウドを通じて入力内容が世界中に広がります。その結果、個人情報の外部への発信（漏洩）に繋がりますので、このような行為は絶対に避けなければいけません。
- 基礎配属や研究の過程で知り得た独自の研究成果や内容には、特許など知的財産に関連する重要な情報が含まれています。守るべき情報を開示することに繋がりますので、これらを安易に入力しないでください。

③ 著作権侵害の観点から

- 人工知能チャットボットで生成されたレポートや資料等には、著作権を侵害した情報が含まれている可能性がある上に、侵害しているかどうか分からないという問題を含んでいます。そのことを考慮せず、安易に自分が創った著作物のように出版したり配信したりすることは避けなければいけません。

人工知能チャットボットは、あくまで学習の助けとなるツールです。技術の倫理的な利用を意識し、適切な使い方を学ぶと共に、その利点を活かしながら、自分自身の研鑽に努めてください。